



淫縛ノ巫女

穢レ巫女編



元より優れた霊力を持った男が  
色欲に憑りつかれ成り果てた  
強大な力を持つモノノ怪を

自らの身体をもって  
祓い続ける事を宿命付けられた  
善家の血を受け継ぐ「篝 天音」

しかし色欲の塊であるモノノ怪は  
対峙した巫女を取り込むため  
淫猥な責めでいつまでも  
巫女の身体を蹂躪し続ける

先代の巫女・・・彼女の母親は  
モノノ怪に取り込まれてしまったため  
彼女は十歳にして巫女を受け継ぎ  
この地に封印されたのにも関わらず  
地上に這い出るモノノ怪の「一部」を  
祓う為従事する事となった

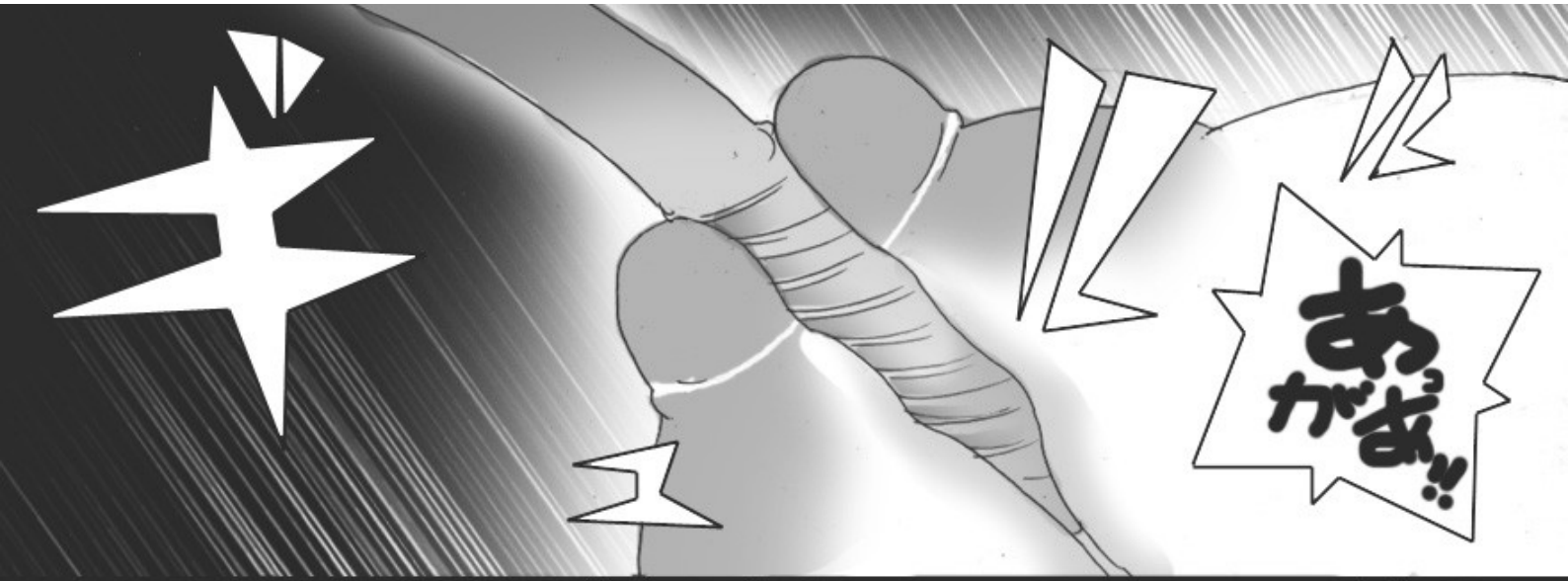
天音の母は天音がまだ成長しきる前に  
取り込まれてしまったため  
天音は他の巫女以上に長い間  
巫女としてモノノ怪の相手を  
しなくてはならなかった・・・

の年





篝 天音  
(かがり あまね)







篝 紗枝  
(かがり さえ)

安心おし  
ここは家の寝室だよ



目が覚めたようだね  
天音...

！おばあちゃん  
私……

ゆっくり寝てなさい  
学校には今日は  
休むと言ってあるから

……  
お父さんは？

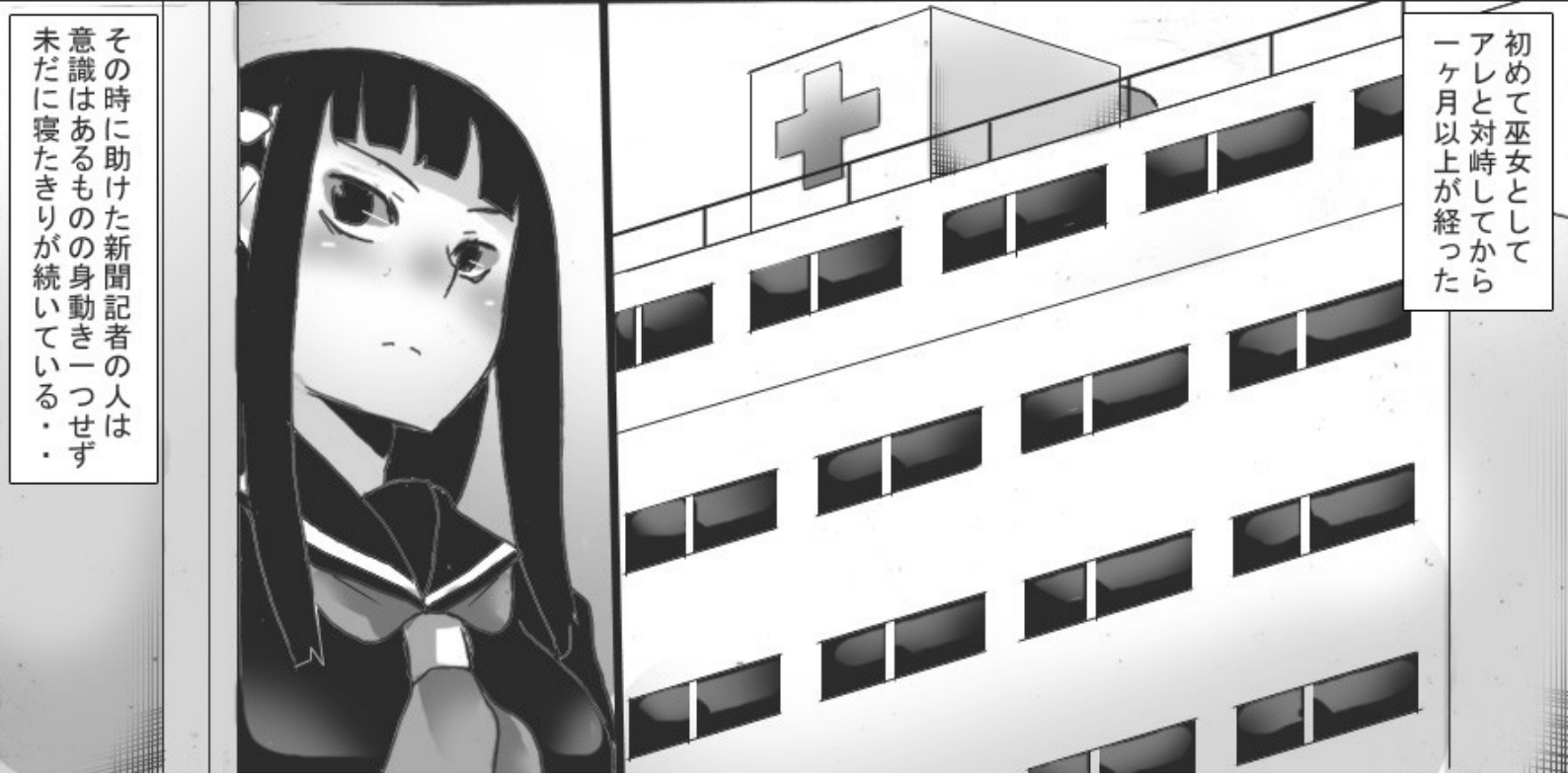
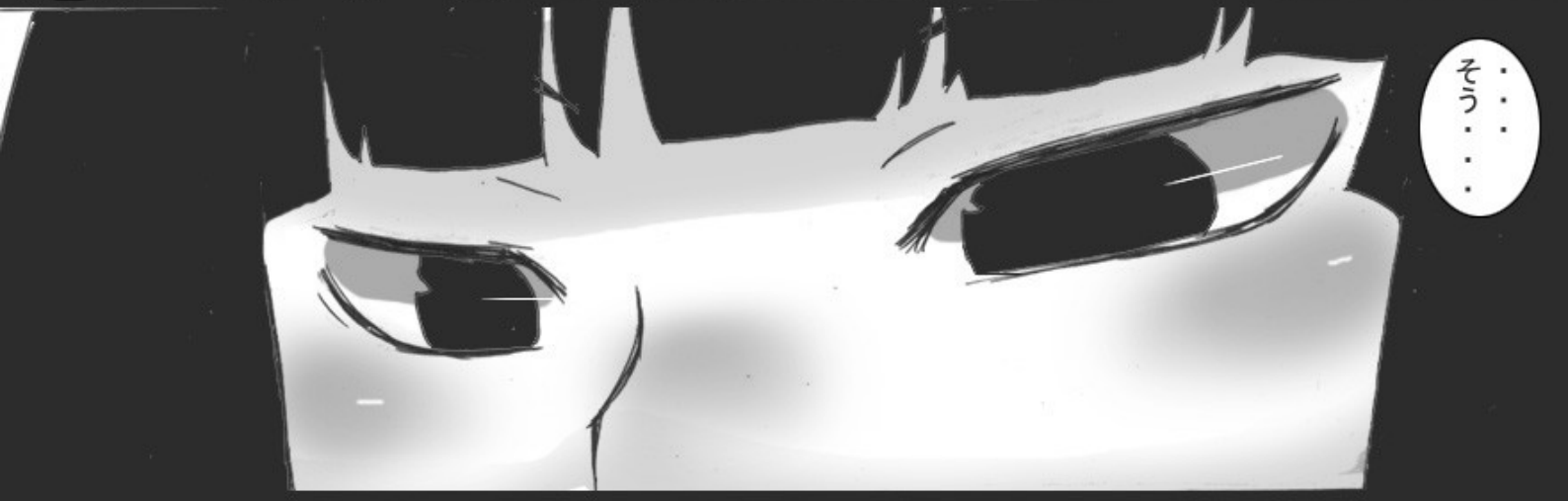
あなたを連れ帰った後  
あなたが助けた  
新聞記者の様子を  
見に行ってるよ

……  
そう……

三日後――

初めて巫女として  
アレと対峙してから  
一ヶ月以上が経った

その時に助けた新聞記者の人は  
意識はあるものの身動き一つせず  
未だに寝たきりが続いている……



地元の警察の人たちが  
行方不明になっていて  
女性達の事件との  
関連性を調べたり

この人の家族らしい人が  
警察の人に事情を  
聴いたりしていたけど

原因は怪物によるものと  
例え真実を語ったとしても  
誰も信じようとはしないだろう

あの時・・・  
なんとか間に合ったとはいえ  
この人はアレの責めに屈し  
体を取り込まれかけていた


もしかしたらこの人の御魂が  
アレに少し取り込まれたため  
意識はあっても  
あの状態なのかもしれない

一応私の身に着けている物と同じ  
退魔の数珠を予め付けさせてはいるけど  
御魂を取り込まれかけていた状態の彼女を  
アレから隠せるのかどうか・・・

・・・今はこうして  
様子を見にここに  
来ることしかできないけど

彼女の意識がもし  
回復した時一体  
どうなるのか・・・  
どうしたらいいのか・・・






かがり



まさり



いくらなんでも  
退けてから再び奴が現世に  
現れる間が早すぎる！

篝 雅仁  
(かがり まさひと)

まだ一ヶ月程しか経ってないのに  
これで四度目だぞ……！！

アレが現世に這い出てくる隙が  
例年以上に多いわけか・・・  
理屈はわかるが・・・

仕方ないよお父さん  
私が巫女に就くまで  
鏡石の霊力をもたせる為に  
限界ぎりぎりまで霊力を  
弱めてたから

私はアイツの気配を  
直に感じていたから  
こうなる事は予想してたよ  
お父さん

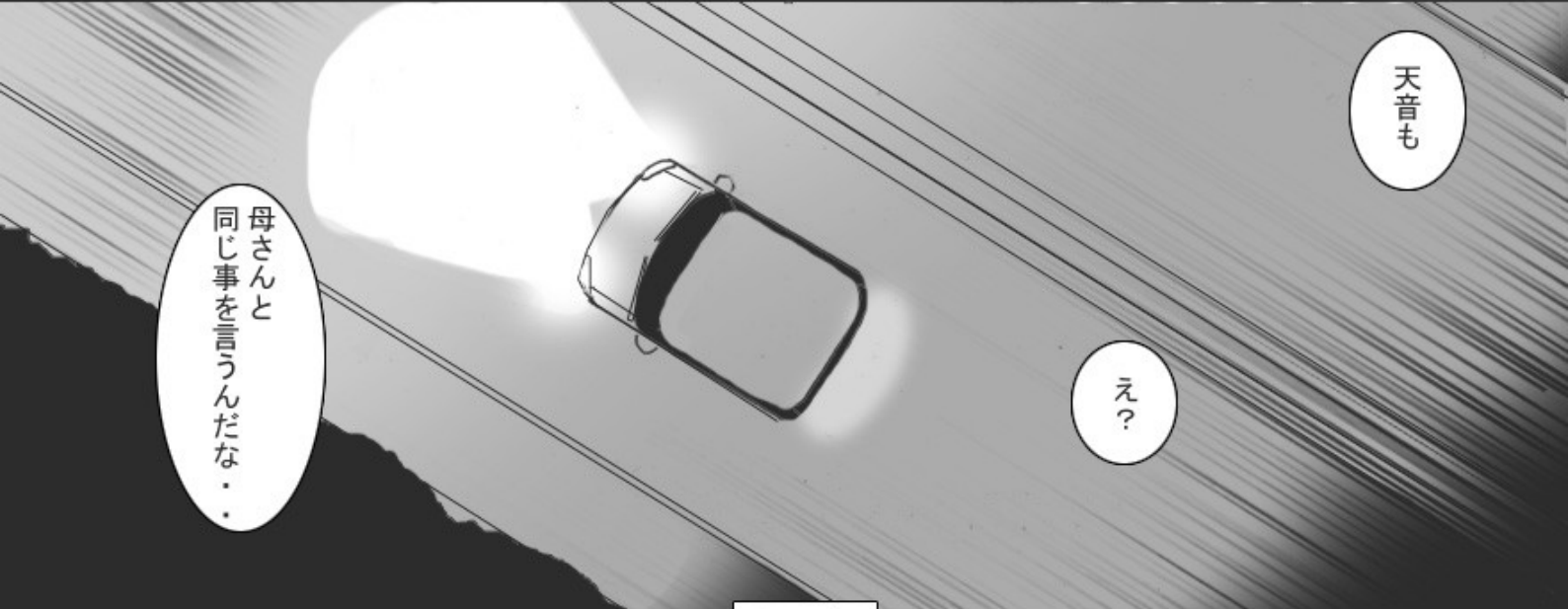
だから覚悟は出来てる  
鏡石の霊力が十分溜まるまで  
私が全部相手をしてやるわ!

大丈夫よお父さん  
アイツが何してこようと  
私の魂が屈さない限り  
アイツは私を取り込めないから

・・・  
無理はしないでくれ



……!



天音も

母さんと  
同じ事を言うんだな……

え？

お母さんと  
同じ事……  
か……



お役目に就く前までは  
お母さんを取り込んだアイツを  
私の手で倒したくて……  
ただそれだけだった



巫女としてお役目に就いて  
まだ一月程しか経ってないけど  
今ならお母さんの気持ち  
解る気がする

アイツはもう近くまで来てるから  
お父さんはもう少し離れてて！

だけど実際対峙してわかった  
アレは私なんか  
滅せるものなんかじゃない

私に出来るのは歴代の巫女と同じ  
アイツに体を委ね体の内にある  
純度の高い霊力を体液と一緒に  
触手に塗りたいくらいそれを爆発させ  
一時的に退けることくらい

考えるひまもなく  
アイツが現世に現れるのは  
むしろありがたいくらい

考える時間があればある程  
アレに玩具のように蹂躪される  
自分を顧みてしまう

・・・きつとお母さんも  
それが原因でお父さんに

来たっ！

えっ!?



...



左手に付けておいたはずの数珠が無い！  
外されないように普通の人には  
認識出来ないよう術をかけたはずなのに！  
まさか……

あなたは……！  
なんでここに……！



なっ!

ぶっ

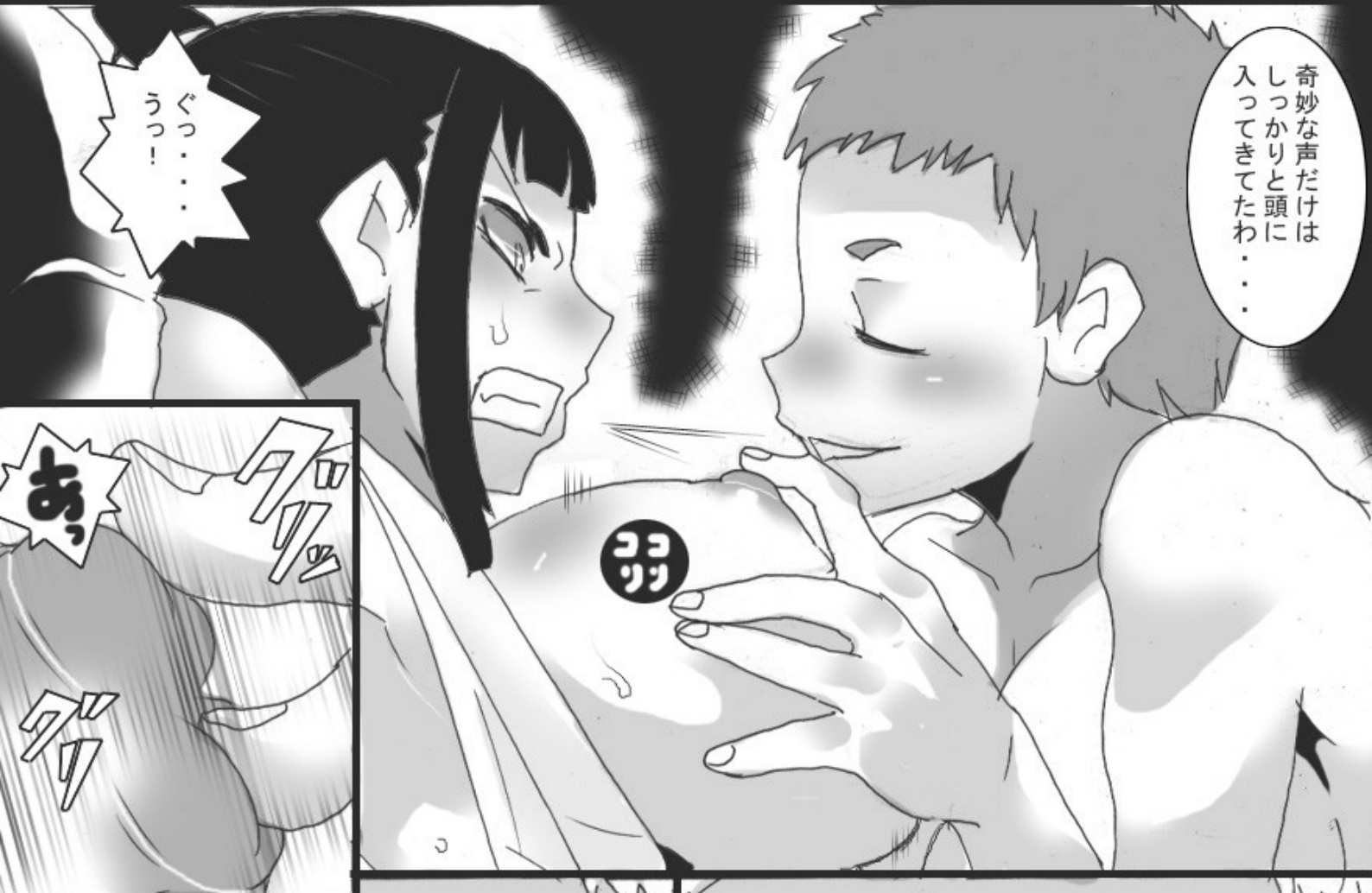
く?

ぶっ



病院で寝てる時  
医者の声も親の声も  
まるで頭に  
入ってこなかったけど

あっ!



奇妙な声だけは  
しつかりと頭に  
入ってきてたわ...

ぐっ...  
うっ!

あ  
グ  
グ



箒 犀星を  
肉欲の虜にしろって

箒 犀星を犯せ...



篝 犀星を・・・  
あなたを墮とせば  
私も一緒に素敵な世界に  
連れて行ってくれるって！

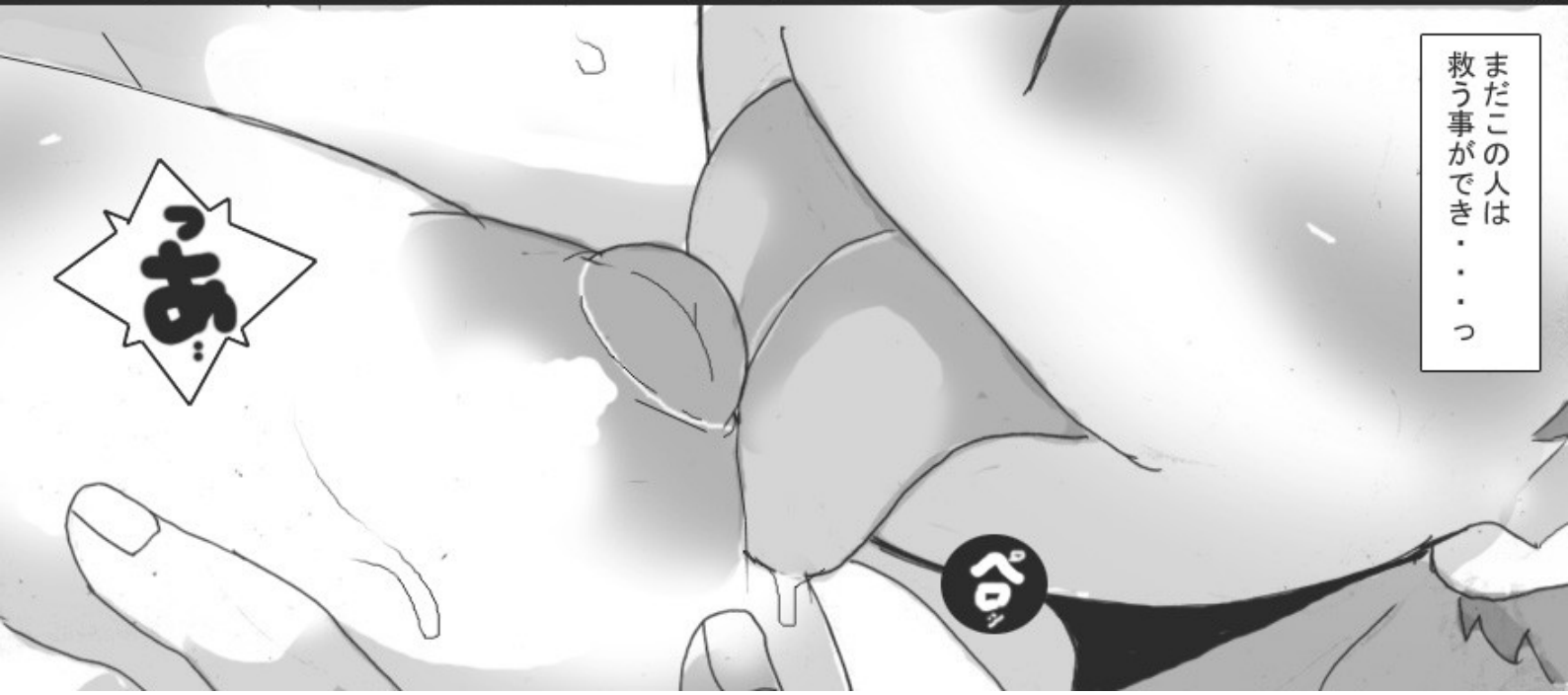


でも彼女の手のひらの感触  
まだ完全にアイツのものに  
なっていない・・・

くっ！  
は、はなして・・・



この目・・・  
やはりあの時アイツに  
身体を侵食されて！



まだこの人は  
救う事ができ・・・っ

うあ



くっ!

私と同じように  
乳首をこの触手に  
おかしくされて  
母乳が出るように  
なってるんでしょう?

んん



母乳を搾られると  
頭がおかしくなるくらい  
快感がやばいのも  
身をもって知ってるのよ

ちゅら

んん

たっぷり  
搾ってあげるわ!

あああ  
んんん

カ

★

あなた  
私がこの街に来たとき  
私に忠告した子よね？

あの時は可愛げのない  
澄ました顔してたけど

今私に乳首抜かれて  
母乳出しながら  
顔しかめてよがり声を  
あげるあなたは

初めて会った時より  
とっても可愛いわよ♪

く  
ま  
ま

お  
ま  
ま

ま  
ま





んぐう・・・!!  
んむう!!

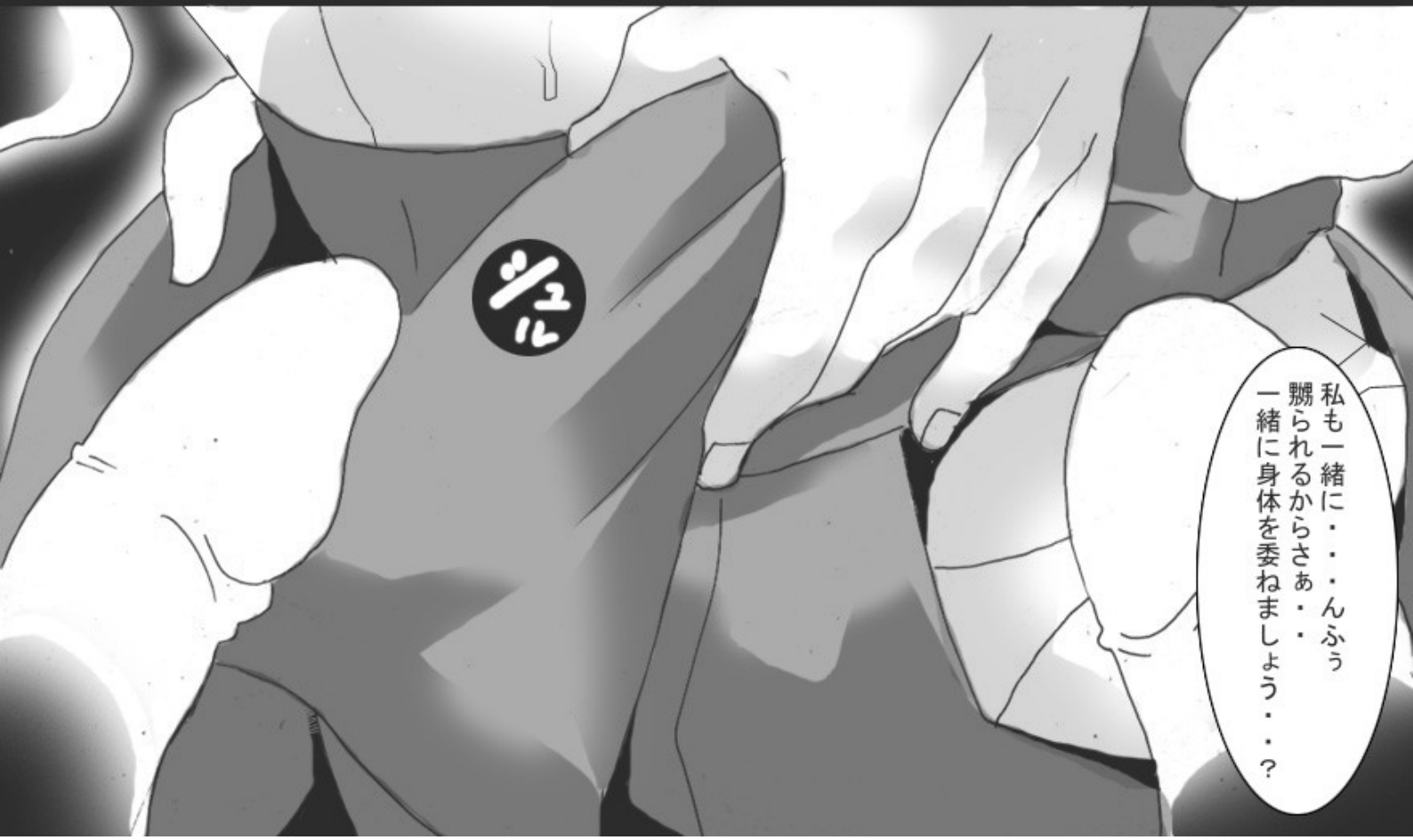


あふっ・・・!!  
や・・・あ!!

んっ・・・?  
解る・・・?  
あなたになら  
解るわよねえ?

フ  
ッ

あなたの母乳の匂いに刺激されて  
触手達があなたの身体を貪りたくて  
しかたないのがさあ・・・



ム  
ル

私も一緒に・・・んふう  
辨られるからさあ・・・  
一緒に身体を委ねましょう・・・?

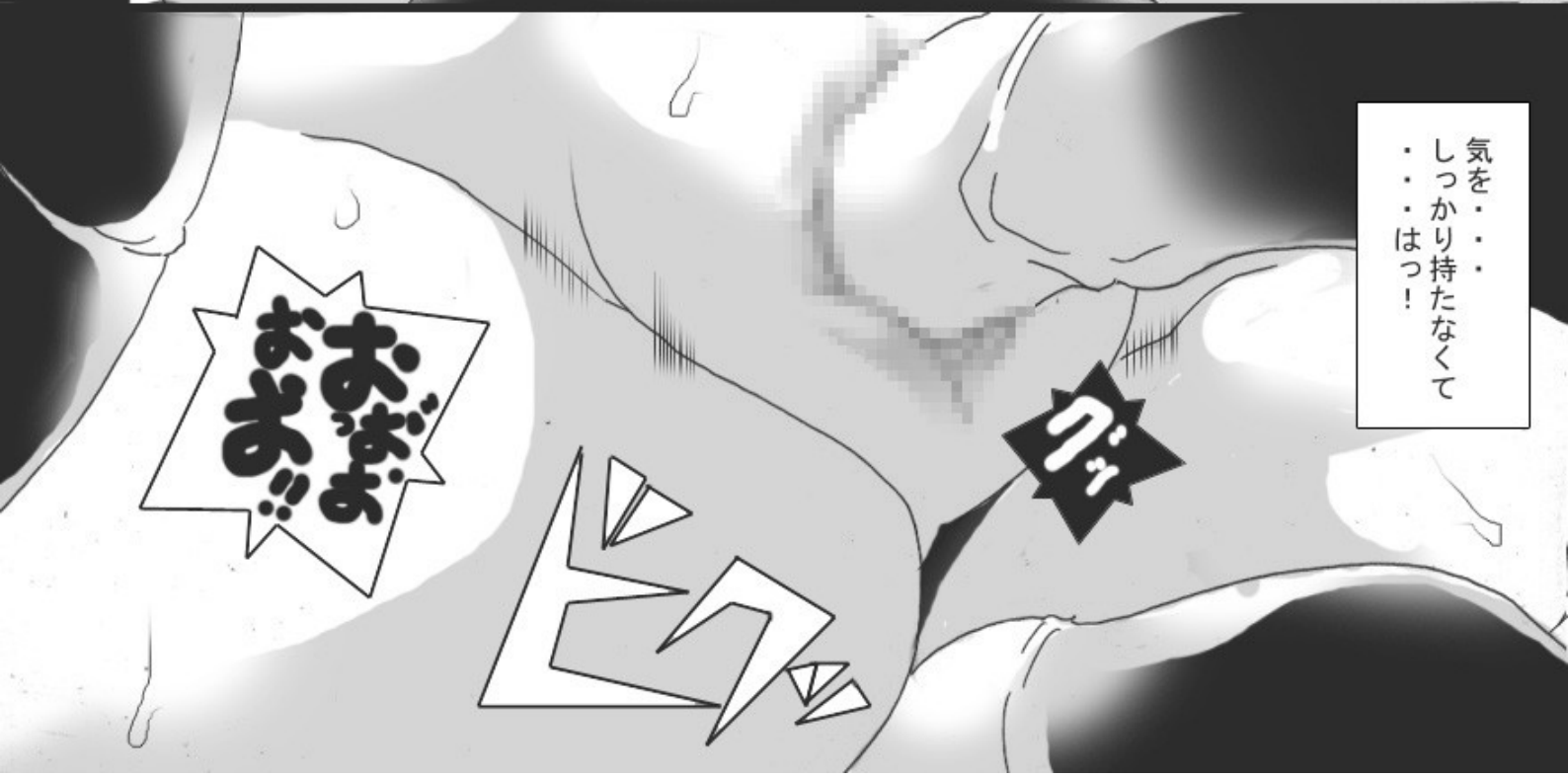
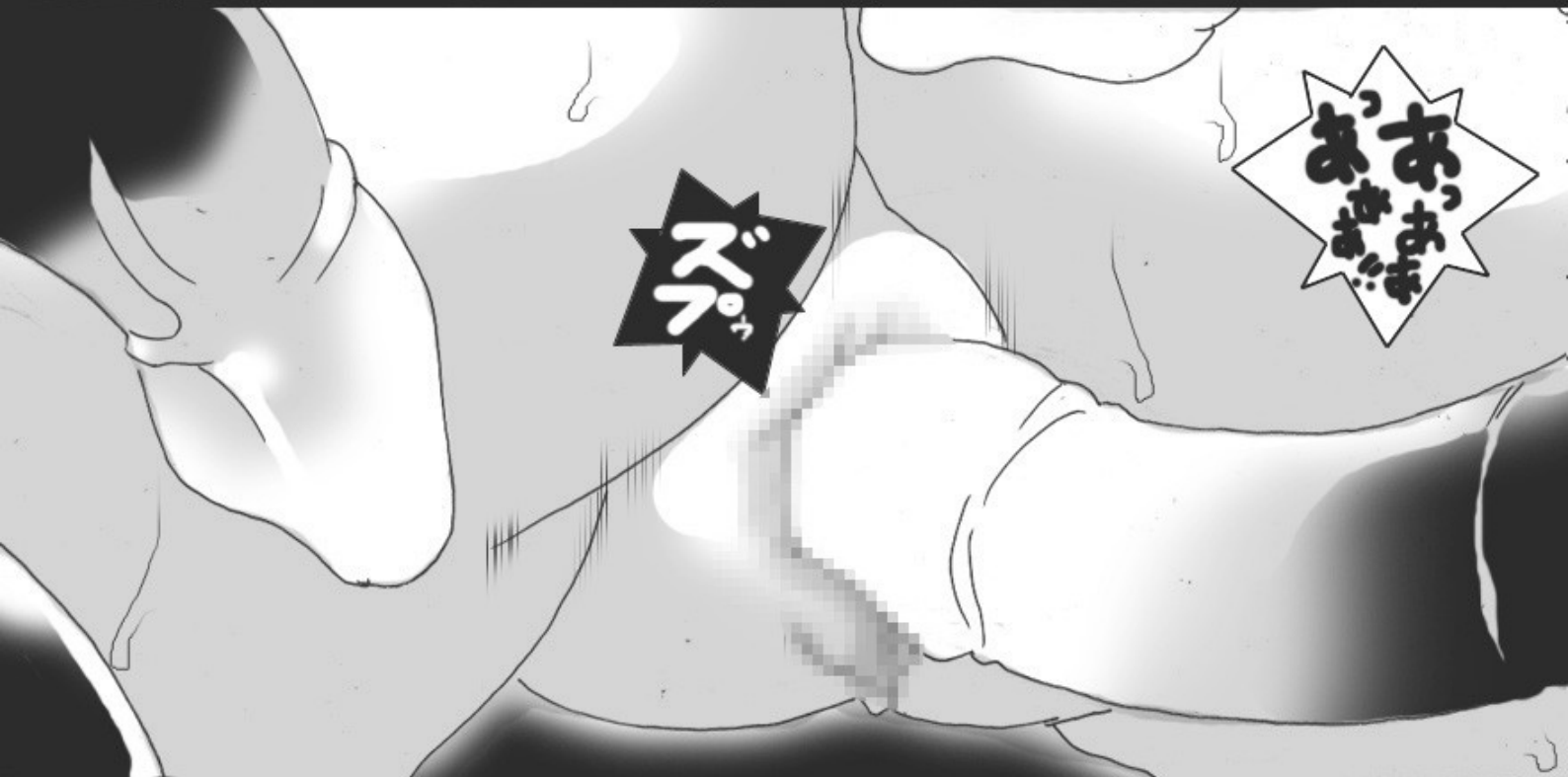


天音・・・





人の体温が・・・  
いつもの触手の感触だけじゃない  
温もりが心地よさになって私の感覚を  
狂わせてくる・・・!!



気を・・・  
しっかり持たなくて  
・・・はっ!



ぐんぐんおまおま!!

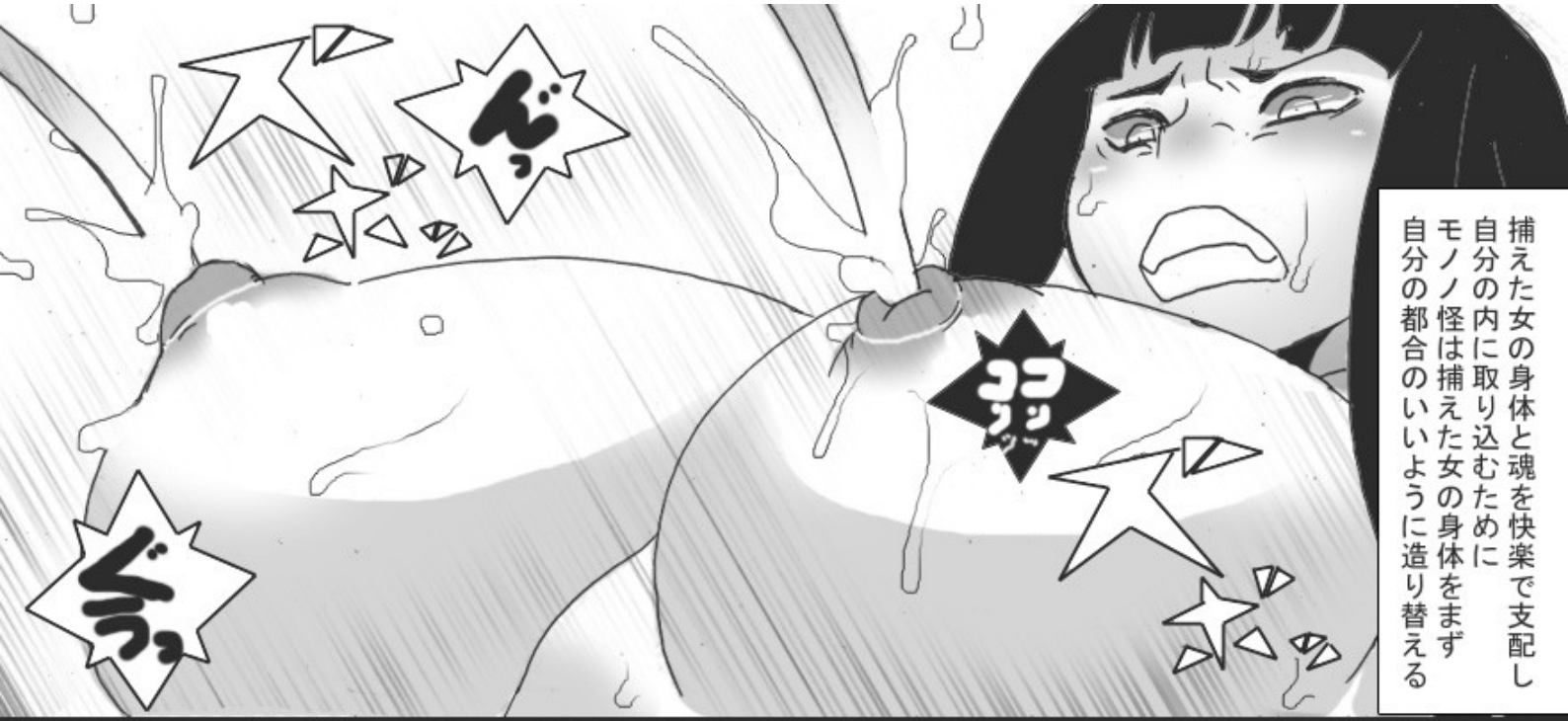
ぐん

ひん

ク

ぐんぐんおまおま!!





捕えた女の身体と魂を快楽で支配し  
自分の内に取り込むために  
モノノ怪は捕えた女の身体をまず  
自分の都合のいいように造り替える



痛みを感じるほどの責めさえ快感にかわり  
乳腺は歪に拡張され出産経験が無くとも  
母乳が大量に吹き出すようになり  
乳首から侵入してくる触手の感触さえ  
痛み等ではなく快感にかえてしまう

この新聞記者の人はもちろん  
・・・私の身体も  
既に造り替えられている



おっおっおっ

何度絶頂しようともモノノ怪は  
責めをやめようとし  
私の抵抗する理性を壊し  
無防備になった魂を取り込むまで



乳首を穿り回され  
母乳を絞り出させ続けられ  
異様な行為に快感を感じ  
もう何もかも  
どうでもよくなってくる

だけど……!

モノノ怪を介して  
彼女のまだ取り込まれていない  
人間の部分の声が  
私の頭の中に流れ込んでくる

助けて……  
たすけ……て！

おあ、おあ、  
おあ、おあ、  
おあ、おあ、  
おあ、おあ、

「あの時」聞いたのと同じ  
助けを求める声が……！

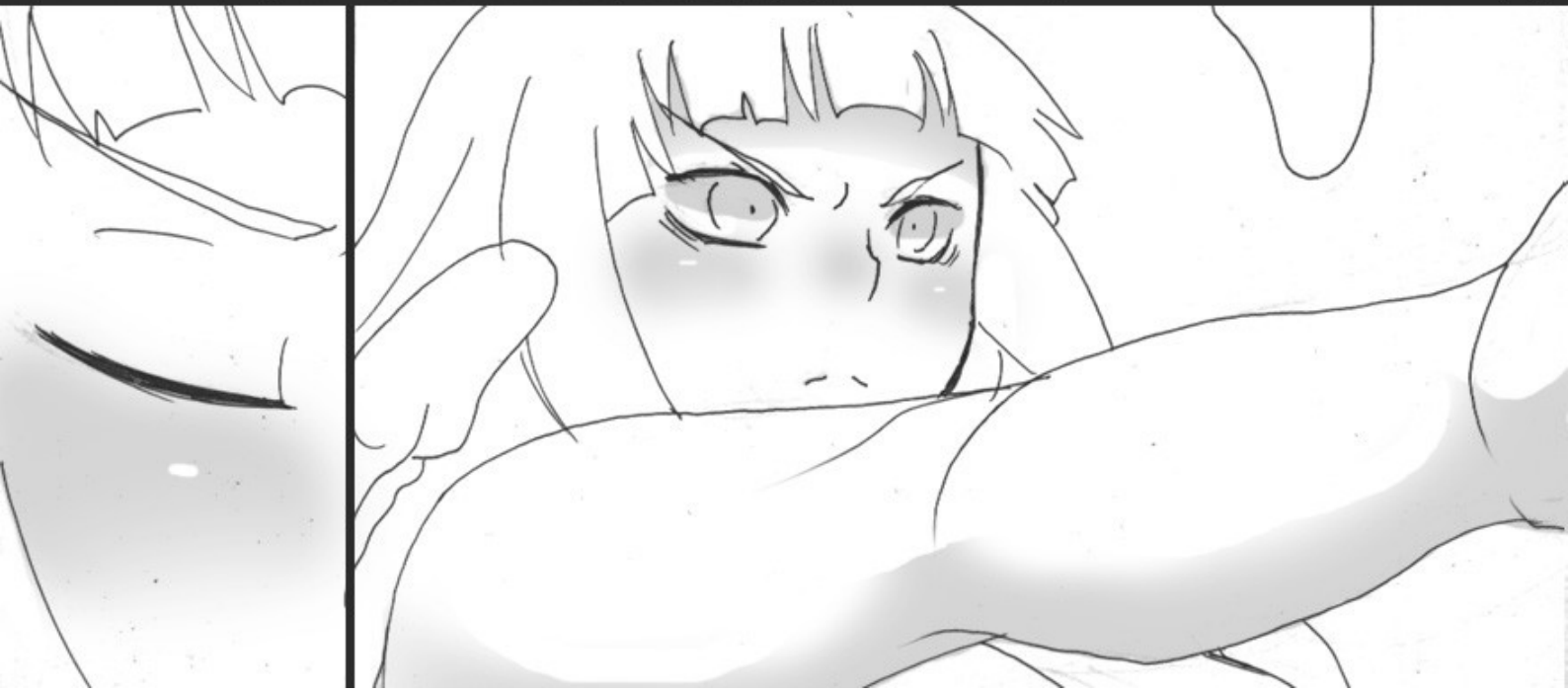
もう二度と  
私の目の前で人を  
取り込ませはしない！

ヒューン

ドロオ

破邪！白虎印！





まさか彼女が・・・

操られてはいたけど  
まだ完全に取り込まれる前だったから  
術式で体を浄化することが出来たの  
たぶんもう彼女の中にアレはいないわ


そうか・・・

彼女を救うために  
彼女に付着させた体液を中心に  
体内の霊力を解放して  
浄化するとは・・・

奴の相手をしている状況で  
よく考え付いたな


・・・聞こえたの  
奴を通してあの人の  
四年前・・・  
お母さんと同じ  
助けを求める声が

！静流が？




お父さんは  
お母さんの傍に付き添いすぎて  
お母さんの心に奴が付け入る  
隙が出来たと思つて  
私の時はなるべく距離を  
置こうとしてた事も  
私は気づいてたよ・・・

天音・・・



・確かにお母さんの  
心が折れた原因は  
そうかもしれない

でも私は  
それでもお母さんとお父さんの  
子供でよかつたと思つてるし  
だからこそ私に巫女として  
成さなければならぬ  
目的みたいなのが出来たわ



お母さんや私のような思いを  
次代に背負わさないように

モノノ怪を私の代で完全に滅する！  
それが私の巫女としての指標







